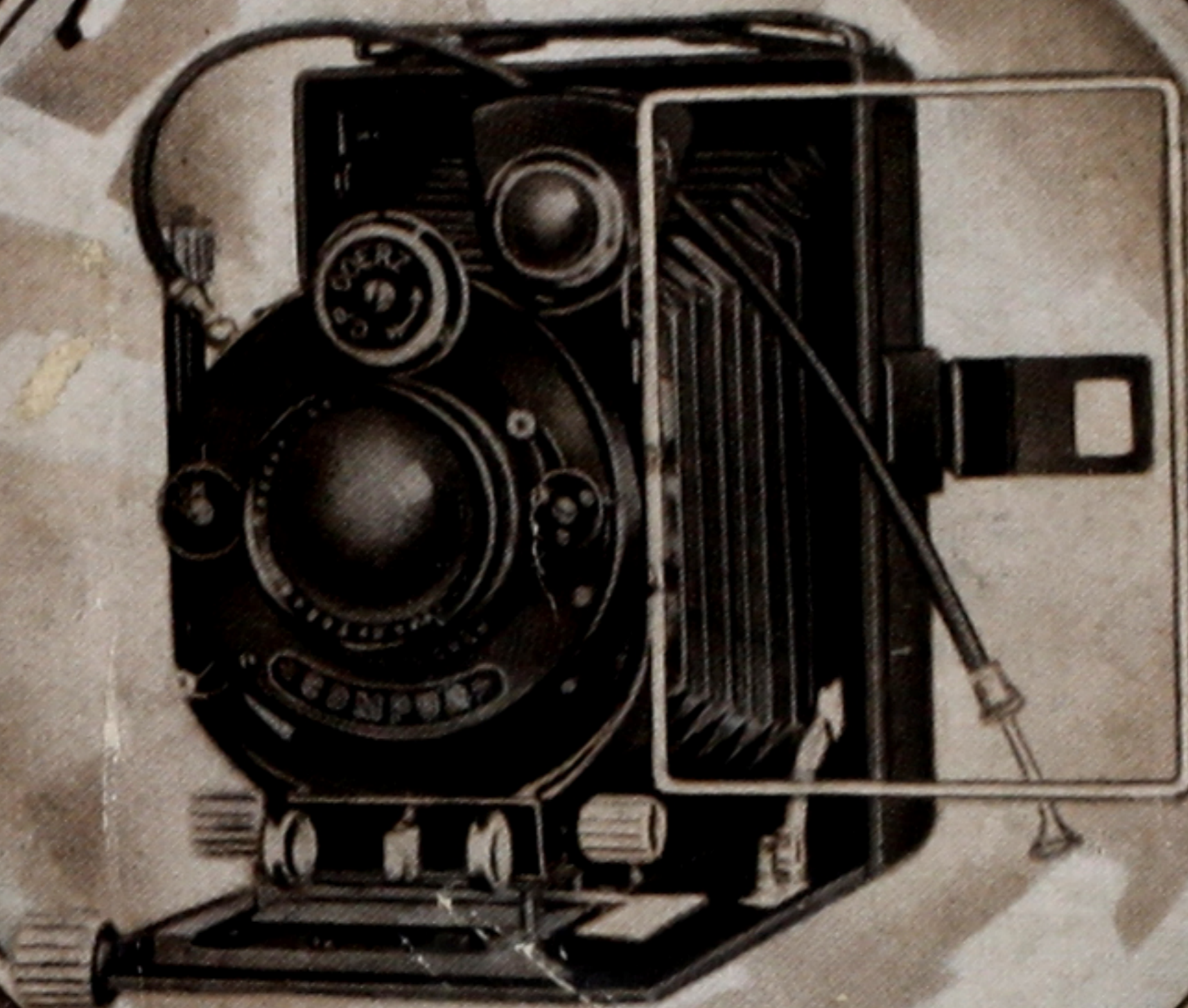


リリーカメラ説明書



LILY CAMERA

東京
六櫻社

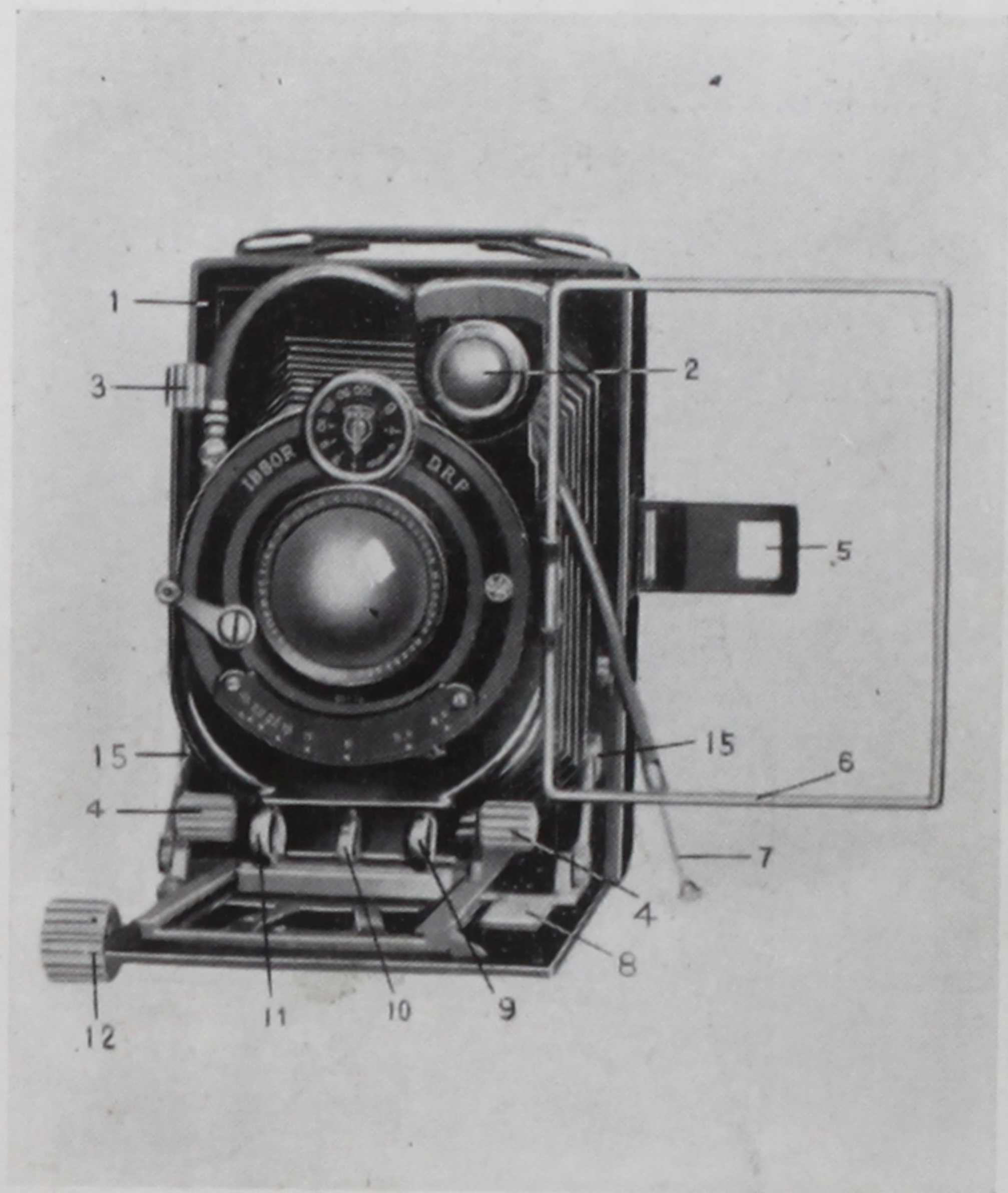
注 意

何に依らず新に機械を手にはせられた場合、必ず先づ第一にそれに添付された説明書を始めからよくお読みになることは最も望ましいことでもあります。そして總てをよく呑み込んだ上で器械の取扱に掛りますと決して間違ひはありません、器械を第一に説明書を第二或は全然讀まなかつたりしますと器械の破損を早める計りでなく其の器械特有の長所を發揮する機會がなく至つて没趣味なものに終ります、どうぞ一通り御讀み下さい。

目 次

1. 機械の開き方閉ち方
2. 鏡玉臺の出し入れ方及び焦點の合せ方
3. 焦點の深さ
4. シヤッターの取扱法（別刷参照）
5. 絞りの使ひ方
6. 「アホリ」の使ひ方
7. フワインダーの使用方
8. 乾板の出入れ方
9. 注意十束

1. 機械の開き方閉ぢ方



先づ第二圖に示す様に左手で機械を持ち右手の

人差指で蓋の部分を受ける用意をし乍ら左手拇指で(1)のボタンを押します、さうすれば蓋は自然に發條の力ではね出し右手の人差指で受けられる形さなりますから直ぐ右手の指三本で蓋を押へて直角の位置迄開きます、若し右手で受けずに(1)の押しボタン丈けを押しますと蓋は勢ひよく發條の力で開きますから蓋の蝶番をい



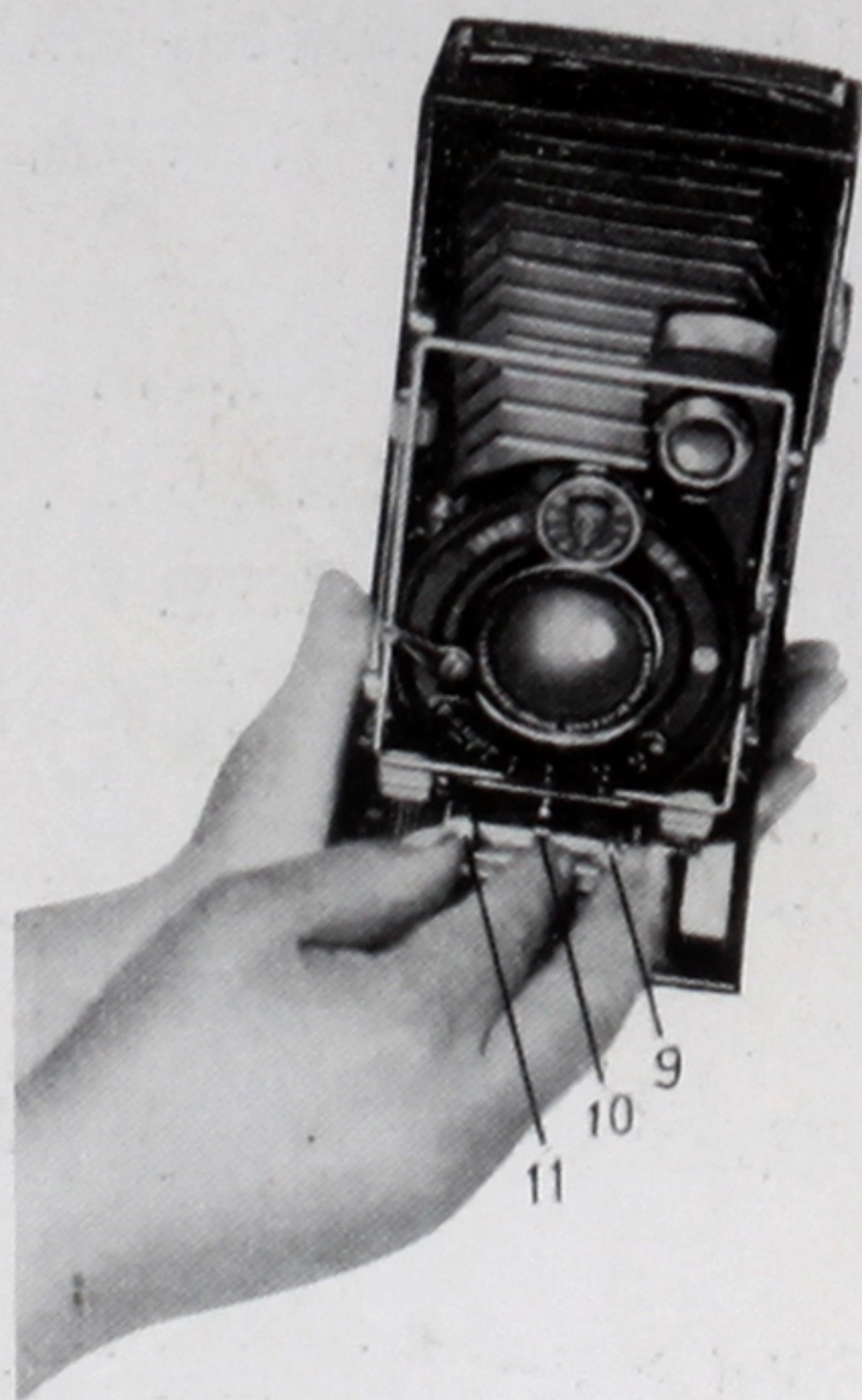
第二圖

ため勝ちとなります、機械を疊むには之を逆に行へばいゝので両手で機械を持ち両方の拇指で「タスキ」の金具(15)を下方に折り曲げ乍ら蓋を閉ぢれば宜しいのです。

然し種々機械を動かした後蓋を閉ぢる爲めには全部の部分が元の通りに収まらなくつてはなりません即ち、蓋を閉ぢる際注意すべき事は：

1. 齒車で操り出した「レール」が元の位置に戻つてゐるか何うか。
2. 直視フワインダーが元の位置に收つて居るか何うか。
3. 豎及び横のアホリが元の位置に戻つてゐるか何うか。
4. 反射フワインダーが豎の位置に戻つてゐるか何うか。
5. ケーブル・リリースが適當な位置にあるか何うか。
6. 鏡玉臺が充分函の奥に收つてゐるか何うか。
7. 把手(12)が中の位置に收つてゐるか何うか。

2. 鏡玉臺の出し入れ方及び焦點の合せ方



第三圖

鏡玉臺を出し入れするにはカメラを左手に持ち右手の二本指で(9)(11)の金物を内方に押し付け乍ら引き出します、針が丁度の ∞ を指した時に丁度止る様になつて居ります、普通其れ以上の出し入れは(12)の把手に依り齒車で徐々に出し

入れします、把手(21)は外方に引き出せば由自由に回轉して「レール」を伸縮し中に押し込めば「レール」の動きを止めて「ブレーキ」の働きを爲します、又極く接近して撮す場合に(12)の把手で「レール」を出し切つても未だ不足の場合は第三圖に示す様に(9)(11)の金具を内方に押しと同時に中央の金具(10)を左に押し乍ら鏡玉臺を最前方迄引き出します、そして細かい調節は把手(12)で行ふ事は前と同じであります、扱て實際撮映の場合に當つて焦點を合せるにはスケールに依る場合と焦點硝子に依る場合と二通りありますが焦點の正確を要せず手早く合す場合には「スケール」に依る方が便利であり、何うしても正確に合さねば都合の悪い場合は焦點棒を入れて合せた方が好結果を得る事が出来ます、スケールで合す場合に普通距離の測定は目測か距離計に依るか又は實測して居りますが馴れた人なれば6尺位の所迄 F:4.5 の開放で撮映するのに目測で定めても大して外れる事はありませ

んからカメラに焦點棒を入れて目測の練習をしておくのも非常に役に立つものであります。又焦點棒を用ふる際にはカメラを三脚臺に載せるか又は他の適當な臺に載せて動かぬ様にせねばならぬことは勿論であります。

3. 焦點の深さ

此の寫眞機に附けてある鏡玉は開放の儘等距離にある物體はすべて隅から隅迄焦點が合ふ様に設計せられてありますが然し被寫體の具合に依つて近距離の物から遠距離の物迄一様に焦點を結ばせねばならぬ場合には鏡玉の口径を絞つて「焦點の深さ」を増さねばなりません。此の事は如何なる鏡玉といへ共絶對避く可からざる問題なのであります。

本誌の最後に添付しました表は絞りの大きさと焦點距離とに依つて焦點の深さが何れだけあるかを示した物であります。

「焦點の深さの表」 參 照

即ちそれに依つて見ますと鏡玉の焦點距離

13.5^{c.m} の場合 13呎の所に「スケール」を合せ絞りを $f/5.6$ 迄絞れば約 11'7" から 14'9" 迄の間のもものに焦點が合つてると云ふ譯で逆に同じ鏡玉で 10 呎から 20 呎迄の間に人物を並べて全部に「ピント」を合せ様と云ふ様な場合には別紙の表の 9'8"—19'9" の部分を選んで「スケール」は 13 呎に合はせ絞りは $f/16$ に絞るべきであります。

4. シャッターの使用法(別刷参照)

5. 絞りの使ひ方

絞りは前に述べました通り「焦點の深さ」を加減する外に鏡玉を通過する光の量を加減するのに用ひます。

絞りを動かすにはシャッターの下部に附いて居る爪を左右に動かします、その面にある 6.3 とか 12 とかいふ数字は其の時の絞りと焦點距離の比が 6.3 であり又 12 であることを示して居ります、之に依り 6 と 12 の明るさの比は $6^2 : 12^2$ で $144 \div 36 = 4$ 即ち 6 の時 $\frac{1}{100}$ 秒で好い場合 12 に絞ればシャッターの速さは $100 \div 4 = 25$

即 $\frac{1}{25}$ 秒でよい事がわかります、是から行くさ
各数字の明るさの比率は概ね次の様になります

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-----|-------|------|-------|
| f/4.5 | f/5.6 | f/6.3 | f/8 | f/11 | f/16 | f/22 |
| ----- | | ----- | | ----- | | ----- |
| 1.55 | | 1.3 | | 1.6 | | 1.9 |
| | | | 1.9 | | 2.1 | |

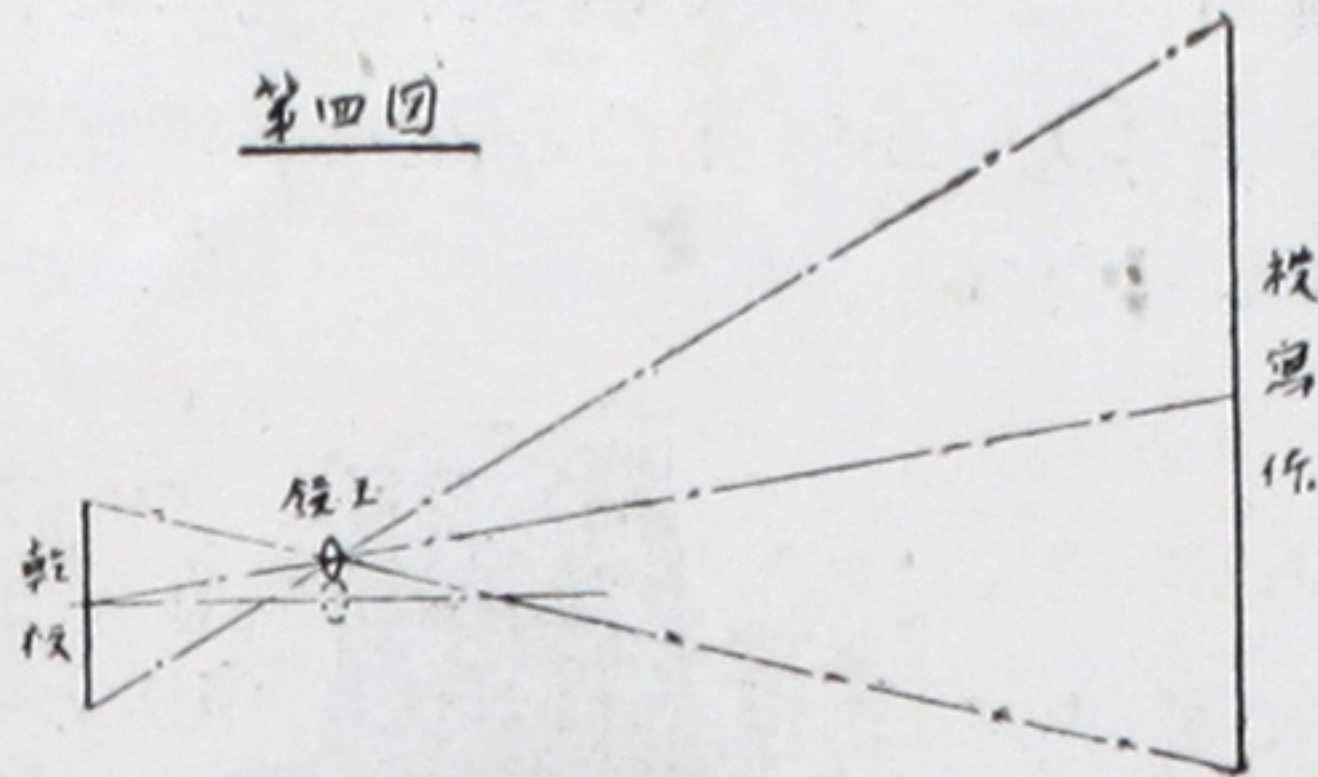
即ち f/16 は f/22 より 1.9 倍明るく、f/4.5 は
f/5.6 より 1.55 倍明るい事云ふ事になります。

6. 「アホリ」の使ひ方

高く聳えて居るビルディング等を撮す場合撮し手
は普通地上に居る事が多いので自然寫真機を上
向けなければ建物を全部撮す事が出来ない様
になります、斯様にして撮しますと建物の上の方
が細く下の方が馬鹿に巾廣く頗る不自然に撮れ
ます、是を防ぐ爲めに「アホリ」を用ひるのであ
ります、即ち斯様な場合には何時でも機械は眞
直ぐに立て、被寫體の上部の這入らない時には
鏡玉を上を上げるのであります丁度第四圖の様
な位置迄「アホレ」が出来た寫真は最も自然に出
來るのであります。

此の機械には上下の「アホリ」と左右の「アホリ」

第四圖

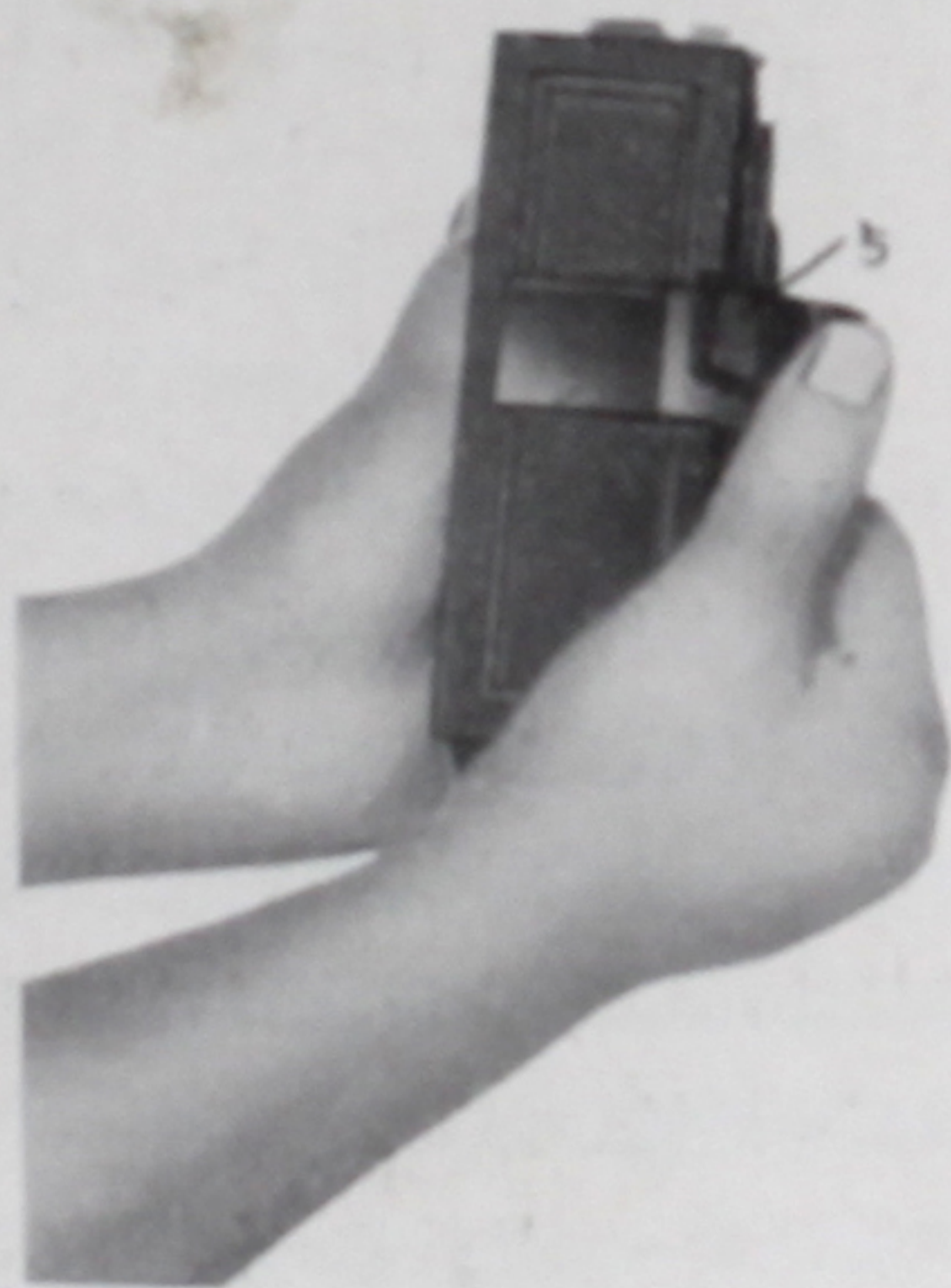


さが付いて居ります上下の「アホリ」は第一圖(3)の金具を捻ちれば宜しく左右の「アホリ」は(4)の金具をねちればよいのです、何れも星を打つて中心の位置が印してありますからカメラを疊む時には元の位置迄戻さねばなりません。

7. フワインダーの使ひ方

直視フワインダー 是は第一圖(5)(6)の金具よりなり(5)の金具は第五圖の様に右手拇指にて引出しアイピースを立てた儘中に押し込んだ位置で使用致します、(6)の金具は簡単に廻して立てる事が出来ず、此のフワインダーで撮影するには機械を目の高さに持ち來

リ「アイピース」の穴から前を見た場合前方の針金棒(6)の中に見える部分丈に乾板に撮る事になります。

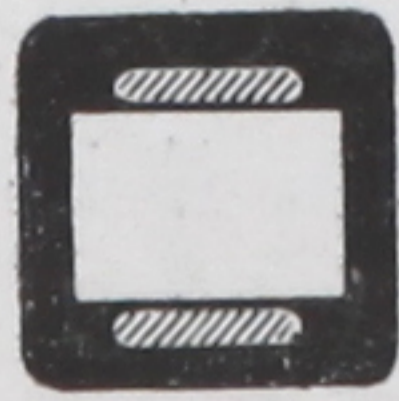


第五圖

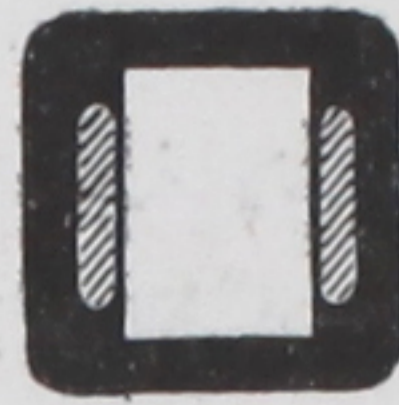
反射フワインダー 此のフワインダーは廻轉式で豎横兼用になつて居りますから豎位置で撮映する時にはカメラを引出したまゝの位置で使用し横位置に撮映する時にはカメラを横にすると同時にフワインダーを廻轉せしめて



a



b



c

第
六
圖

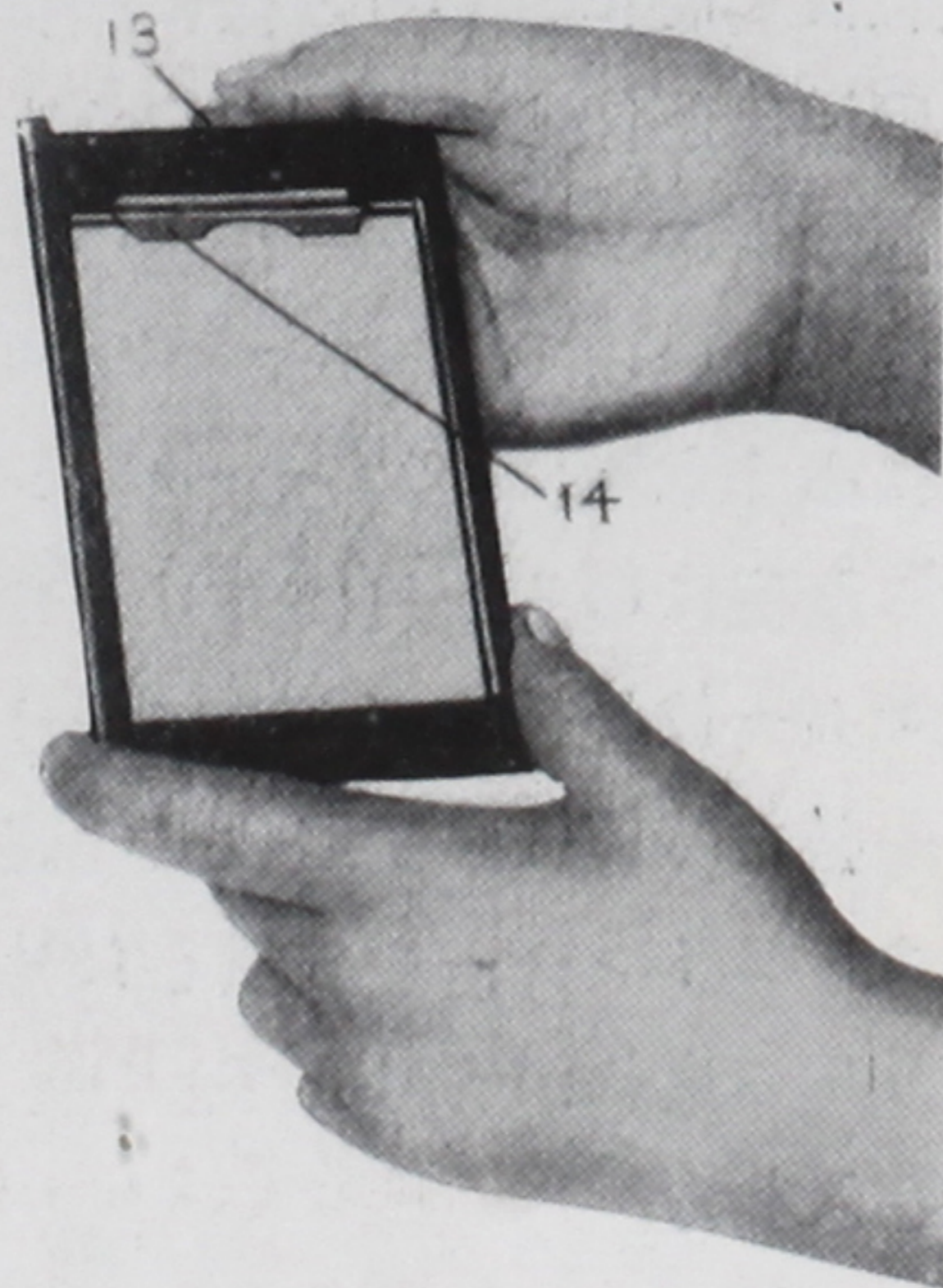
使用します、フワインダーに現はれる繪は第六圖 (a) の様に白い箇所全部に現はれますが是を横位置の時には (b) の様に豎位置の時には (c) の様に想像して位置を定めず、即ち斜線の部分はフワインダーに現はれても寫眞には現はれないのであります。

カメラは必ず水平に保持しフワインダーは必ず上から眞直にのぞかねばなりません、此のフワインダーは疊折式になつて居りますからカメラを疊む時には必ず豎位置に直して置きませんとフワインダーを破損したり又蛇腹を痛めたりする虞れが有ります。

9. 乾板の出し入れ方

未露出乾板を扱ふには勿論暗室内で行はねばな

らないことは申すまでもありません、扱て取枠
に乾板を入れるには、第七圖に示す様に(13)の
レバーを押し下げますと(14)が上方に起上りま
すから乾板の膜面を上にして(暗室ランプで反
射さして見ますとツヤのない方が膜面でありま
す) 下方に挿入し乍らレバーを元の位置に戻す
と(14)の金具で乾板の上方がしっかりと支へら



第
七
圖

れます、取枠に乾板を入れる場合は特に注意して取枠を掃除し、乾板の表面の塵はやわらかい刷毛で軽く掃ひのけて下さい、但し膜面には決して手を觸れてはなりません。

注意十項

1. 鏡玉に塵が附着した場合には洗ひざらして塵の付いて居ない柔かい布かハンカチで一二度軽く拭いて下さい。
2. カメラを寒い場所から急に暖い場所に持ち込みますと時に依つて鏡玉に非常に曇りが出る事が有ります、此の様な場合には濕氣の消え去る迄待ちハンカチで軽く拭いて下さい。
3. 時に依ると鏡玉の内面が曇つたり又は塵のたまる事が有りますが已むを得ざる時の外鏡玉は成る可く外さない様にして下さい。
4. 鏡玉の硝子は普通の窓硝子等に比較して非常に軟い物でありますから（特に凹鏡玉は）餘り強くこすらぬ様軽く刷毛ではらう程度に止めて置いた方が鏡玉の爲めによいのです。

5. 「アホリ」を使ふ場合には乾板に撮る範圍と反射フワインダーに見える範圍と全然異つて居りますから注意して下さい。
6. ケーブル・リリースは成る可く眞直ぐかさもなければ大きく曲げて押して下さい。
7. 手で持つて撮す場合は $1/25$ 秒以上長い露出を掛けるのは無理であります、其れ以上は是非三脚を用ふるか又は適當な臺に置く様にして下さい。
8. パックホルダーにパックを入れるには勿論明るい場所で差支へありませんが成る可く直射日光はさけて下さい。
9. パックの一枚々々を引き出す紙を破り取る時に注意しないと光線の漏る事があります、若し餘り邪魔にならねば破らずに置いた方が無難です。
10. パックを使ふ場合にもピントはツラす必要なく取枠と同じに扱つて差支へありません。

月
付

焦點の深さの表

$$f = 4 \frac{1}{8} \text{ '' (10.5 c.m.)}$$

| 焦點距離 | f/4.5 | f/5.6 | f/6.3 | f/8 | f/11 | f/16 | f/22 |
|------|---------------|----------------|---------------|---------------|----------------|-------------|--------------|
| ∞ | 79'9''—∞ | 64'1''—∞ | 56'10''—∞ | 44'11''—∞ | 32'8''—∞ | 22'5''—∞ | 16'4''—∞ |
| 25' | 19'1''—36'3'' | 18'1''—40'10'' | 17'5''—44'2'' | 16'2''—55'7'' | 14'3''—101'8'' | 11'11''—∞ | 10'—∞ |
| 12' | 10'5''—14'1'' | 10'2''—14'8'' | 9'11''—15'1'' | 9'6''—16'2'' | 8'10''—18'8'' | 7'11''—25' | 7'—42'1'' |
| 8' | 7'4''—8'10'' | 7'2''—9'1'' | 7'1''—9'3'' | 6'10''—9'8'' | 6'6''—10'5'' | 6'—12'1'' | 5'5''—15'1'' |
| 6' | 5'7''—6'5'' | 5'6''—6'7'' | 5'5''—6'8'' | 5'4''—6'10'' | 5'1''—7'3'' | 4'9''—8' | 4'5''—9'2'' |
| 5' | 4'9''—5'4'' | 4'8''—5'5'' | 4'7''—5'5'' | 4'6''—5'7'' | 4'4''—5'10'' | 4'2''—6'4'' | 3'11''—7' |
| 4' | 3'10''—4'2'' | 3'9''—4'3'' | 3'9''—4'3'' | 3'8''—4'4'' | 3'7''—4'6'' | 3'5''—4'9'' | 3'3''—5'2'' |

$$f = 4 \frac{3}{4} \text{ '' (12 c.m.)}$$

| 焦點距離 | f/6.3 | f/8 | f/11 | f/16 | f/22 |
|------|---------------|---------------|----------------|---------------|---------------|
| ∞ | 74'—∞ | 58'2''—∞ | 42'4''—∞ | 29'2''—∞ | 21'2''—∞ |
| 25' | 18'9''—37'6'' | 17'7''—43'4'' | 15'10''—59'8'' | 13'6''—160' | 11'7''—∞ |
| 12' | 10'4''—14'3'' | 10'—15' | 9'5''—16'6'' | 8'7''—20' | 7'9''—26'7'' |
| 8' | 7'3''—8'11'' | 7'1''—9'2'' | 6'9''—9'9'' | 6'4''—10'10'' | 5'11''—12'6'' |
| 6' | 5'7''—6'6'' | 5'6''—6'8'' | 5'4''—6'11'' | 5'—7'5'' | 4'9''—8'2'' |
| 5' | 4'9''—5'4'' | 4'8''—5'5'' | 4'6''—5'7'' | 4'4''—5'11'' | 4'1''—6'5'' |
| 4' | 3'10''—4'2'' | 3'9''—4'3'' | 3'8''—4'4'' | 3'7''—4'7'' | 3'5''—4'10'' |

$$f = 5 \frac{5}{16} \text{ '' (13.5 c.m.)}$$

| 焦點距離 | f/4.5 | f/5.6 | f/6.3 | f/8 | f/11 | f/16 | f/22. |
|------|----------------|----------------|---------------|----------------|---------------|--------------|---------------|
| ∞ | 136'10''—∞ | 105'—∞ | 93'4''—∞ | 73'9''—∞ | 53'9''—∞ | 36'10''—∞ | 26'9''—∞ |
| 40' | 30'8''—57'4'' | 29'—64' | 28'1''—69' | 26'—87' | 23'—154' | 19'3''—∞ | 16'2''—∞ |
| 20' | 17'5''—23'7'' | 16'10''—24'7'' | 16'6''—25'4'' | 15'10''—27'4'' | 14'8''—31'7'' | 13'—42'9'' | 11'6''—75' |
| 13' | 11'10''—14'5'' | 11'7''—14'9'' | 11'5''—15' | 11'1''—15'8'' | 10'6''—17' | 9'8''—19'9'' | 8'10''—24'6'' |
| 9' | 8'6''—9'8'' | 8'4''—9'10'' | 8'3''—9'11'' | 8'1''—10'3'' | 7'9''—10'9'' | 7'4''—11'9'' | 6'10''—13'3'' |
| 7' | 6'8''—7'4'' | 6'7''—7'6'' | 6'6''—7'6'' | 6'5''—7'8'' | 6'3''—8' | 5'11''—8'6'' | 5'7''—9'3'' |
| 5.5' | 5'4''—5'9'' | 5'3''—5'9'' | 5'3''—5'9'' | 5'2''—5'11'' | 5'—6'1'' | 4'10''—6'6'' | 4'7''—6'9'' |

(註 : ' は呎、'' は吋)

寫眞材料定價表

| | | |
|--------------------|--|------------------|
| 乾板 | $6\frac{1}{2} \times 9$ cm.又は手札判 | |
| | エクリツプス、イーストマン「四十」 | |
| | イルホSR. アライアンス等 | ¥ |
| フイルムパツク | $6\frac{1}{2} \times 9$ cm.又は手札判 | |
| | さくら、イーストマン、アゲフ | |
| | ア等 | ¥ |
| カメラ又は取棒用革靴 | リ、リー・カメラ用 | |
| | 暗函及パツクホルダー入用 | |
| | $6\frac{1}{2} \times 9$ cm用 | ¥ 5.60 |
| 同上 |手札用 | ¥ 6.80 |
| | 暗函、取棒及パツクホルダー入用 | |
| | $6\frac{1}{2} \times 9$ cm用 | ¥ 6.50 |
| アイデア・タンク現像器 | | |
| | $6\frac{1}{2} \times 9$ cm用 |乾板兼用 ¥ 4.50 |
| | 手札用 |同上 ¥ 5.50 |
| さくら硬膜液 |200c.c.入 | ¥ .40 |

| | | | |
|------------|----------|---|-----|
| さくら硬膜液 | 450c.c.入 | ¥ | .75 |
| 暗室不要「デセンス」 | 200c.c.入 | ¥ | .50 |
| 〃 | 450c.c.入 | ¥ | .90 |
| さくら現像液 | 一號 | ¥ | .15 |
| 〃 | 二號 | ¥ | .25 |
| 〃 | 四號 | ¥ | .45 |
| さくら濃厚現像液 | 50c.c.入 | ¥ | .50 |
| コンク濃厚現像液 | 30c.c.入 | ¥ | .30 |
| ユニオルMQ | 一本 | ¥ | .10 |
| 〃 | 五本箱入 | ¥ | .45 |
| さくら一浴現像定着液 | 100c.c.入 | ¥ | .50 |
| さくらハイポー驅除劑 | 5管入 | ¥ | .50 |
| さくらハイポー檢出液 | 50c.c.入 | ¥ | .35 |
| さくら補力液 | 100c.c.入 | ¥ | .55 |
| さくら減力液 | 70c.c.入 | ¥ | .20 |
| アイデア鞆 | 印圖貼付用小 | ¥ | .20 |
| 〃 | 〃 大 | ¥ | .30 |

現像紙用調色液

| | | |
|---------------------|---|-------|
| 赤、青、紫、緑、セピヤ……………各一種 | ¥ | .65 |
| さくら酸性ハイポー……………100瓦入 | ¥ | .25 |
| 〃……………200瓦入 | ¥ | .40 |
| 〃……………450瓦入 | ¥ | .70 |
| アイデア・タンク現像薬……………小一包 | ¥ | .40 |
| 〃……………大一包 | ¥ | .90 |
| レコード引伸器……………名判判用 | ¥ | 30.00 |
| 〃……………手札判用 | ¥ | 40.00 |

暗室ランプ

| | | |
|-----------------|---|------|
| アイデア(石油用)…………… | ¥ | 3.20 |
| ミニマム(同上)…………… | ¥ | 1.40 |
| 乙四角(石油、ローソク兼用)… | ¥ | 2.30 |
| 電球布付覆ひ…………… | ¥ | 1.50 |
| 赤又は茶電球各…………… | ¥ | .50 |
| 親子電球……………乾板用 | ¥ | .80 |
| 〃……………印画用 | ¥ | .65 |

フイルムクリップ

此の台紙は保存なすつて此のカメラで好い
 写真がお出来のときに此の台紙へ貼つて郵
 送り下さい

□ 隔月一回審査をいたして入選畫に左の賞を贈見
 いたします

| | | | |
|-----|----|---|----------|
| 一等賞 | 一人 | 拾 | 圓 (商品切手) |
| 二等賞 | 二人 | 五 | 圓 (商品切手) |
| 三等賞 | 三人 | 三 | 圓 (商品切手) |
| 四等賞 | 五人 | 二 | 圓 (商品切手) |
| 五等賞 | 十人 | 一 | 圓 (商品切手) |

□ 入選寫眞は隔月発行の「寫眞之趣味」に掲載して
 發表いたします

□ 此の台紙へ寫眞をお貼りになつて未々左記へ御
 記入の上小西六本店懸賞係宛御送附を願ます

□ コニカ、ベール、アイデア等六種社製手提カメラ
 を買した寫眞と認めないものは採用いたしません

年 月 日

(住所)

(姓名)

(フリガナ)

(電話番号)

〒 〇〇〇〇



PEARL

LILY

IDEA

IDEA

LILY

LILY

PEARL

IDEA



寫真藥品は

六櫻社製に限る